

第 2 回 天王寺区区政戦略会議

日 時：平成 2 5 年 6 月 2 5 日（火）

午後 7 時 0 3 分～午後 8 時 5 5 分

場 所：天王寺区役所 5 階 502 会議室

○事務局

では、定刻になりましたので、まだちょっとお見えになられていない方もおられますけれども、始めていきたいと思います。よろしくお願いします。

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきましてまことにありがとうございます。ただいまから、平成 2 5 年度第 2 回天王寺区区政戦略会議を開催させていただきます。

早速ではございますけれども、議題に進めさせていただきたいと思います。

議題（１）としまして、各作業部会からのご報告ということで、ご提案、ご意見を含めて議論のほうをいただきたいというふうに思っております。

ご案内ですが、少し先を予定しておりますけれども、有識者会議との合同会議であります区政会議を開催したいと思っております、その際には平成 2 4 年度の運営方針の評価と合わせまして区政戦略会議で委員の皆様はこの間ご議論をいただいてまいりました内容につきまして、ご報告のほうも予定をいたしております。本日はその際の資料について確認する意味でご意見、ご提案をお願いしたいと思っております。

では、田中議長よろしくお願いいたします。

○田中（英俊）議長

これから発表していただいて、意見交換をするわけですがけれども、最終形ではなくてここで意見をいただいて、また多少手直しありということですね。はい、わかりました。

それでは今回は教育・子育て・国際交流、作業部会から最初にお願いします。

各部会とも説明時間 15 分、意見交換 15 分ということで進めていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。そうしたら栗谷委員。

○栗谷委員

皆さん、こんばんは。教育・子育て・国際交流部会の栗谷でございます。

以前からメンバーの中で話を進めておりまして、ここに書いておりますけれども、天王寺区の子どもたちに水谷区長が推進します日本一の文教都市ということで、今現状ある区のマテリアルをいかに活用して子どもたちに国際交流、そして他にはできないことをやっていこうということで、いろいろと論議をしまいいりました。ここに書いてありますけれども、次世代の子どもたちに与えられるのは国際化、英語力もそうなんです、区役所とこの近辺に国際交流センターという既存の施設があります。せっかくだので、それを含めて天王寺区の小学校の中でのグローバル化とかウイン・ウインの関係を持たせたいということでいろいろ考えております。

一つは出前教育ということで、国際交流センターにはいろんなネットワークがございまして、そのネットワークを活かして、普段会える機会のない領事館の奥様とかそういう方々に来ていただいて、いろんな国際交流の場を子どもたちに広めていただくという、そういう普段ではなかなかできないネットワークを有効に使ってやっていこうというものです。

田中誠悟委員がいろいろ校長会等でもお話をさせていただいておりまして、なかなか難しい部分もあるんですけれども、少しずつ道は開いていけるかなと思っております。私も同席させてもらいまして教育大のほうにもお話をさせていただきましたが、なかなか国立は壁がちょっと高くて実現にはちょっと厳しかったんですけれども、何かまた力になることがあればいつでも相談には乗っていただけるように窓口はつないでいただくようにはさせていただきました。

あと、子どもたちがみずから参加していただける、「こどもアンバサダー会議」ということを考えておりまして、参加者は20名程度でいろんなことをみずから自分で

考える、そういう場も積極的に提供したいなと思っております。

基本的な運営は、もちろんこの区役所も兼ねているんですけども、NPOというのを考えておまして、そうしたNPOを窓口としていろんなこういうネットワーク、情報を迅速に発信できるように、そういうNPOの発足もメンバーの中で考えている途中でございます。まだまだ長き道のりなんですけど、メンバーみずから本当に少しずつですけども進んでおりますので、また次回いい話ができるかと思っておりますので、また皆さんご協力のほうよろしく申し上げます。

以上でございます。

○田中（英俊）議長

もうちょっと時間ありますけれども。

前回もご説明いただいておりますので、委員の皆様は内容をよくおわかりかと思っておりますけれども、せっかくの機会でございます。十分意見交換、議論の時間が持てるかと思っております。何かありましたら。ご発言をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

私から質問してよろしいですか。

先ほど、ここの中にもあるんですけども、NPOは既存のNPOではなくて新たにNPOをつくろう、子どもの教育のためのNPOをつくろうということですか。

○栗谷委員

そうですね、一つに区役所が、ということではなくて、そういうワンクッションを入れていろんなところに情報交換、迅速に動けるように、ワンクッションをおいて動けるような感じをつくっていければなというふうに、今メンバーで進めておるところでございます。

○田中（英俊）議長

私も幾つかNPOの設立から運営にかかわったりしたことがあるんですけども、お金集めが大変なんですけれども、それは何かアイデアありますか。

○栗谷委員

地域の企業さん、天王寺区でしたらデサントさんとか、そういうふうなところにもちょっと声をかけようかなということで話は進んでおります。ですから、なかなか自分たちではできない部分がありますので、その辺は少しずつですが考えております。

○飛田委員

ざっとしたところで、全体の事業費というのはどれぐらいのものを考えておられるのでしょうか。NPOも含めて、例えばそれは1,000万、2,000万になるものなのか、1,000万以下ぐらいのことを考えておられるのかちょっと見えないんですけれども。

○栗谷委員

その辺がちょっと、その額というのはまだ1,000万というのはちょっと大き過ぎると思うんです。一つの出前講義でだいたいここに書いてありますけれども、5万から10万程度ということで。

○飛田委員

何となく私が思ったのは、場所を借りるにしても、そういうお金も考えると1,000万ぐらいないことには何もできないのかなと、ふと思っただけなので。

○栗谷委員

基本的には小学校に出向いて、もしくは国際交流センターという既存の施設がありますので、そこに子どもたちに足を運んでもらって。

○飛田委員

教育ではなくて、NPO自体の場所というのがいるのかなと思ったので。事務所を借りるにしても、どこか間借りにするにしても。

○越村委員

NPOになったときに、区として、区とのかかわり方というのを、ここには区役所はあくまでも窓口ですとか書いてあるんですけれども、そういうふうなイメージがち

よっとNPOにするという、ちょっと私にはイメージが。どうなのでしょう、ちょっと漠然とした質問でごめんなさい。

○栗谷委員

区役所というのは行政なのでなかなか直接取引というのは難しいと思うのです、いろいろな方面に関しまして。そういう面でワンクッションおかせてもらって、NPOがいろんな方面にいろんな情報ネットワークがあると思うんです。それを迅速に動かしていける情報を共有できるという、そういう役目を一つ担えたらいいかなとは思っているというふうに思うんですけれども。

○田中（英俊）議長

これは当然のことながら認可法人というか税制の優遇を受けるというところで考えるわけですね。

○栗谷委員

そうですね、当然利益は取っていかないとできないと思うんですけれども。なかなか難しいとは思いますが、少しずつは皆さん知恵を持っておられますので、動いていっているとは思います。

○田中（英俊）議長

講師もこの前、テーマがここにも書いてありますけれども、幾つかあって年何回ぐらいやるつもりなのか。講師もある程度めどをつけないと実際スタートしようとしたときに大変だと思うんですけれども。私はお金が汚くないというテーマで話をしてもらえたらと言われましたけれども。

○栗谷委員

そこまではちょっとまだ煮詰まっていないのが実情なんですけれども、まずは天王寺区の小学校で一つずつ、1学期に1回でもできたらいいかなというのは思っているんですけれども。

ですから、ネットワークはかなりありますので、後はそういうしつらえというか、

それができれば動いていけるんじゃないかなと思っているんです。ですから、既存の今の国際交流センターがありますので、そのネットワークがかなりいろんな方面で持っておられますので、それを有効に使えば僕はなかなかいい話、子どもたちにとって有効な場ができるんじゃないかなと思っています。

○田中（英俊）議長

区と間のクッションになると言っただけでも、区のほうがこれをやる気になって、区のどこのセクションが窓口というか協力する形になるのか。例えば教育委員会ですと、市庁舎のほうになってしまいますし、区との関係、区にどういう役割を期待するかとか、そういう議論はもうされているのでしょうか。

○水谷区長

ちょっと、お話をさせていただきますか。

まず、前段として今日本当に区政会議直前の最後の戦略会議ということで、今まで本当に皆さんそれぞれの作業部会でお話、議論をいただいて、具体案が幾つもまとまってきたと思うんです。

それぞれについて、これまでの議論の中でもお示したことはありますけれども、区役所としてそれぞれの案についてどのように受けとめているかということをお話させていただけたらと思うんです。その第一弾となる、この「TERAKOYA」については、区役所としても日本一の文教都市をめざすためのさまざまな施策を打っていつて、あした中高生向けのインターンシップ事業を開始するという、プレスレクのプレスリリースをやったわけですが、そうした施策を進めていく中で、ぜひこの戦略会議から上がってきた案も一緒に連携する形で実現させていただきたいというふうに思っております。

そういう意味で、栗谷委員がさっきおっしゃった、NPOをめざしていくと。しかも任意団体としてではなくて、いわゆるNPO法人としての、法人格取得をめざされていくということで、それは本当に敬意を表すべきことであり、行政に依存するので

はなくて自分たちの力でこの天王寺区の教育、サービスを確立していくという、その取組は、本当に我々としても頭が下がる思いだと思っております。

その上で、NPO法人格取得までにどうしても時間がかかる部分はあると思うんです。じゃあ、その間がだいたい半年なのか1年なのかというのは実際作業が動き始めてみないとわからない部分もあると思うんですけれども、その間、さすがにここでせっかく具体論まで詰めて議論したわけですから、実際に何か取組が全くその間行われないというのも、もったいない話なので、これも教育・子育て・国際交流作業部会の各委員さんと個別に相談させていただく中で、私もお話をさせていただいたんですけれども、区役所と連携する形で今年度について区主催という形で何らかの子ども向けのイベントを実施できたらなというふうに思っております。

それに当たっては、いきなりアンバサダーとかディベート教室とか国際交流に関するセミナーとか手を広げ過ぎてしまったらなかなか形になりづらいと思うので、そこは作業部会の皆さんとお話させていただいて、例えばまずはディベート教室でいこうと仮になれば、それに向けて区役所の、これは具体的なカウンターパートとしては区庁舎3階にあります未来人材育成担当の河野課長、今日は来ていないんですけれども、そこを主体で検討をさせていただきまして、今年度中にも第1回目を実施させていただけたらと思います。

その中で実際、こういう事業に区内の子どもさんたち、あるいは親御さんたちにどれぐらいのニーズがあるのかということとかも、実感していただきながら、じゃあ、こういうサービスであれば事業化もめざせるなど、いろいろと実感しながら法人格のほうも検討していただけたらなというふうに我々は思っているところでございます。

法人化後に区役所とどういう形で連携をするかということについては、これは特定法人という形になりますから、何らかの事業をするに当たっては、例えば公募であったりとか、そういう競争性・透明性を確保した手続きが必要になるということもあるかもしれませんが、それについては法人格が仮にされた場合に、また別途その都度検

討していくべきことなのかなというふうに思っております。

以上です。

○田中（英俊）議長

どなたかご意見、ご質問ございませんか。

そうしたら今まで議論したことも踏まえまして、若干の法人格をとるということは大変なことだということは区長のほうからも話がございましたけれども、報告の場合こういうことを考えてと、これだけ熱意があって、こうだということを有識者会議委員の方々にご理解いただくという必要があるかと思えますけれども、そういう形で進めていただければということでしょうか。

そうしましたら若干時間は早く終わってしまいましたけれども、次のテーマに移らせていただきます。

そうしましたら2番目は防犯・防災・地域社会作業部会からお願いします。

越村委員、お願いします。

○越村委員

9ページのほうから、先にごらんいただきたいと思います。全体会議に出すということで、少し囲みの中に、特に防犯・防災・地域社会作業部会ではたくさんの方のことを話し合ってきましたので、ちょっとまとめてみました。

平成25年1月からほぼ月に1回のペースで開催した会議で、これまで実施されてきた事業と今年度実施予定の防犯・防災・地域社会に関する施策について話し合いをもちました。さまざまな事業について意見を出し合った中で、もちろんそれぞれが重要なものなのではありますが、今回の合同会議においては、一応今年度から新規に開始される「独居高齢者等見守りサポーター事業」をメインに取り上げて報告したいと思ってこの資料を案として作成いたしました。

内容については前回、お示しした部分とほぼ同じです。さらにあれから一度作業部会をもちましたので、追加した点、追加というかももう少し書き加えた点なんですけれ

ども、10ページを見ていただきますと評価の部分でちょっと、ふにゃふにゃとついていると思うんですけれども、来月事業説明会があるというふうに聞いております、私も今日じつは申し込んだんですけれども、ちょっと今やいやい言っても、というところもありますので、秋ごろに事業の進捗状況を一度担当部署の方から確認をしたいなというふうに思っております。

あと、4番目の区役所としての実施体制の部分で、3つ目のポツがあると思うんですけれども、せっかく高齢者宅を訪問する、またとない機会なので、今までいろんな事業をやっていますので、そことの連携を取ることが効率的であるし、またそういうこともやっているんだなということで、高齢者の信頼感も得られると思います。例えば何か私たちの作業部会の中でちょっと思いついたのが、家具転倒防止器具取付事業が今度から始まりますので、せっかく行くときに一緒にその話も、こんなあるんですよとみたいな話とか、あるいは従来アクションプランを通じてつくっておられる安心安全カード、普及はしているようなんですがもう一步普及というところでグッズとして1つ持っていくといいのではないかとということと、私たちはそれしか思い浮かばなかったんですけれども、あと何かあれば皆さんからもご提案とかご意見もいただけたら横の垣根、部署ごとの連携を取るということで、なかなか難しいかもしれませんが、せっかく来る市民は一人の市民なので、いろんなところから話があるよりも、何回か同じ人が来てくれたほうが信頼もできるだろうということで、ぜひこれはご検討していただきたいなというふうに思っています。

あと、次のポツなんですけれども、本当に新規の試みで、まだ実施手法が確立されていないということで区内の9地域全域で一斉にスタートするよりも、多分そのつもりで今進めておられるのかなとは思いますが、作業部会でみんなから出た意見としてはどこかの地域で集中的にというかモデル的に2、3地域できそうなところと普通ぐらいのところとをちょっと力を入れてみて、できたところで手法を来年度各地域にこうやっていけばできるよという具体的な手法を伝播させていく方法のほうが一斉に用

意ドンで始めるよりもいいんじゃないかなという意見でみんな一致しておりますので、またできたらぜひともご検討いただきたいなというふうに思います。

集まるボランティアさんも地域ごとにどうなるかちょっとまだわからないとは思いますが、最初は違う地域でもいいのでパイロット的、モデル的にするほうがせつかなのでうまくいかせたいなということでこういう意見を出しました。

11ページのほうには合同会議に報告するというので、一応こんな話もいっぱいしましたよということで、本当は全部の資料をつけたいところなんですけど、そんな時間は多分ないと思うので福祉への取組、防災への取組、防犯への取組、あと交通安全、まちづくり、迷惑駐輪対策、生涯学習というふうにとりあえず箇条書きで添付はしております。

もう一つ、7ページに戻っていただいて、ちょっとその辺を文章でまとめた分がありまして、今回の合同会議についてはちょっと7ページのほうは出さなくていいかなという感じなんですけど、最後のまとめに使えるかなというところもあるので、つくっていただいた酒井委員、ちょっと説明お願いしていいですか。

○酒井委員

これまで、うちの作業部会では区将来ビジョンにもある「命を守る政策がしっかりと進められるまち」に関して議論、提案をしてきました。その中で防災、防犯、地域社会という3つに大きく分けて提案したいと思います。

防災に関してですが、上町断層があり、地震の被害が想定されます。区内には医療施設が設置されており、ほかの地域からの災害被害者の受け入れ態勢が期待されると思います。その中で災害を受けた障がい者や高齢者をしっかりと守る福祉避難所の数が質とともに向上されていけたらなと思っております。

地域の中で地域住民が協力して減災に取り組むことも必要だと、公助だけでなく自助、共助を重視した取組みが今後必要となってきます。ワークショップなど区役所と警察等が連携している取組もあるんですが、窓口が一本化じゃなくてどこに相談し

たらいいかわからないという部分もあるので、またその参加者が一定であるなど効果に限定的な部分があるので、そこは抜本的に改革する必要があるなというふうに作業部会ではまとまりました。

防犯に関しては落書きを消去することをして、取組みをやった地域では結果をあげられています。有志ボランティアグループとか有志の人たちもいるので区としてその団体の支援ができるようにしてもらいたい。

違法駐輪の問題があって、住みやすいまちづくりをするという上で進めていかないといけないなと思って、その具体例が寺田駅周辺に「ゆめまちロード O S A K A 寺田町」、さらには J R 寺田町駅西側には「地域自転車利用適正化協働パートナー事業」などがあり、これは今後も継続して区役所と連携して活動していけたらなと、そういうふうに思います。小学生を対象とした自転車教室を行っております。これは比較的予算のかからない取組みでして、今年もその活動を援助してほしいというふうにまとまりました。

地域社会は先ほど越村委員がおっしゃったのと同様で、割愛させていただきます。

以上です。

○田中（英俊）議長

ありがとうございました。

○越村委員

なので、先ほども言いましたけれども、ほかの事業との連携ということで家具転倒防止器具取付事業、安心安全カード以外の、皆さん心当たりのあるものがあれば、ぜひこの場でちょっと教えていただけたらなと思います。

○田中（英俊）議長

質問して申しわけない、15 ページに、区の高齢者見守りサポーターの図式がありますけれども、我々の作業部会、独居高齢者等見守りサポーター事業について、これは区がつくったもので我々としてはこの図の中でどういうことを新たにしようとか、

あるいはこういう考え方を入れたらどうかというのを、ここでもうちょっと説明してもらえますか。

○越村委員

結局、ここに書いてあるとおりになんですけれども、15ページの図を見ていただきますと、基本一番上のスーパーバイザーの部分でありますと、質の担保、特に3名でいろんな仕事をしないといけないんですけれども、それがやりきれんのかどうかというのを、お給料も適正なのかどうかも含めて、もう少し予算を次年度にはちょっと上げていただきたいなというところと、つなげ隊についても専従チームができれば、要はその事業に関してずっと引き続いて、引き継げていけるような体制をつくっていただきたいなということと、ボランティアリーダーについてはその業務の高度さというかたくさん結構ある割に報酬は低いので、これはちょっと実際どれだけ集まっているのかまだ途中の段階なので、実際どういうふうに皆さんが捉えられるのかというのを、もうちょっと見てみないといけないので秋ぐらいにもう一回精査というところと、ボランティアの確保です。これもできれば今は公募だけですけれども、公募で40何人か50人集まっているとお聞きしておりますので、それ以外の人たちも巻き込んでいけると、学生についてもできれば夏休みとかだけじゃなくて、授業の一環として専門学校とか福祉系の専門学校とかもありますので、かかわっていただけたらなという感じですか。

この図以外で、結局横にいっぱい出ているところがあるんですけれども、これも結構前回出たんですけれども、区役所がするのはすごく芯になりつつ、地域につなげていくという、重層的な取組みが絶対必要なので、この図の左にある地域活動協議会の民生委員さんとか、あるいは右、地域生活支援ワーカーという部分とか、あるいはもっと今あるサービス事業者さんであるとか、高齢者をめぐる専門家の方々との連携は大事違うかなと。地域との連携も大事だから先ほど言ったような話で、まず幾つかの地域でやってみて、ちゃんと地域にも理解してもらってやっていって、ああ、あんな

ふうにしたらできんねんというのを地域の方々にもわかっていただいて、中心に区役所が動いてもらってうまく連携をとっていけたら、すばらしいなという話をしているところです。

○田中（英俊）議長

区の事業をやろうとしていることにけちをつけるわけではないので、できたらA4の真ん中に区が考えている内容があって、それに対して作業部会としてはこういう検討をして、ここはこういうことに注意すべきではないかとか、ここはこういうことも活用できるんじゃないか、あるいはこういうことも重層的にできるんじゃないか、その中で今皆さんにご意見を求められたことで、先ほどの地震対策の転倒防止とかいろいろあるけれども、その中にもこういうことを一緒にやれるんじゃないですかというのも含めて、ここに意見を言うような形で全部の地区でやるんじゃなくて、これはパイロットプランでどこかで手を挙げたところとやるべきだとかいうことをここに書き込んだほうが、区がやろうとしていることと、皆さんが議論してきたことが、どこでどういう違いがあるのか、どこが我々の意見なのかというのがよく見えてこないのです。

○越村委員

意見は9と10なんです。

○田中（英俊）議長

その話を聞いて15ページを見ると区役所がやっていることを言っているだけじゃないのととられかねないので、そこにこういう意見ですよということを言えるような形でまとめてくれたほうが、今我々、私自身聞いていて、どこに違いがあって、どこに新味を出して何を区役所の皆さんに注文をつけようとしているかというのが、もう一回自分でそしゃくしないとわからなくなる、という感じを持ったんです。これは私の個人的な感じ方です。皆さんからのご意見をいただければと思います。

はい、どうぞ。

○原田（照）委員

うちは作業部会のほうでもいろいろ話はしたんですけれども、まず私の個人的な意見も含めて、独居高齢者等見守りサポーター事業、これは一つの大きな柱として進めていく、これが継続的にやって、うまくいくかどうかというのは、私は基本的にはここに書かれている地域活動協議会、いわゆる町会ですね。各地域には町会がある、その中で当然町会という言い方が非常に嫌いな人がいるのであれですが、お隣さんでお互いに見守り合い、また毎日お隣さんに高齢者の人がおればどうかなと、そういうふうなものがちゃんとその地域ででき上がっていかないと、この事業自体は言い方悪いけれども絵に描いたもち、また継続して実施できないと、効果も上がらないとそういう結果に終わるんじゃないかなという気がします。

特にここの下のほうに書かれてますけれども、地域活動協議会、民生委員との連携、ここら辺をどういうふうに協力し合ってやっていくかによって、この事業自体の成功するかしらないか、それにかかっているというふうに思います。

これは来月にもあるんですよね、見守り活動報告会というのが。こういう中で本当に地域の中でそういう高齢者とか、子どもたちも含めてですけれども、どういうふうに見守っていくかお互いに助け合っていくかと、そこら辺が一番のポイントだと思います。

○田中（英俊）議長

有識者会議委員の皆さんに対する説明で、例えば区役所がやっている独居高齢者等見守りサポーター事業について何を作業部会として、あるいは戦略会議として言いたいのかというのが、皆さんも理解できましたか。そのところはちょっと心配かなと思って申し上げました。

○越村委員

このテーマを選んだのも、今言っていたように地域に理解してもらって連携がとれないとだめだということで、全体会議のメンバーがきちっと理解してもらわないといけないだろうという話もあって、これを中心でいこうということになったんです。

田中議長がおっしゃったように、この図の中に入れ込んでいくということですね。

○田中（英俊）議長

ここはこういう問題があるからここを考えてくださいとか。こちらの手前のページに書いてあることを引っ張ってきて。

○飛田委員

たぶん僕らはずっとこればかりやっているから、この図が頭の中にあるから言葉を見たら、こことわかるんやけど、全然見ていない人はどれがどこに結びつくのかわからへんと、ちょっと考えてみましょう。

○田淵委員

今言っておられるのはこの図を中心にして、この周りに色を変えるか何かして、その9ページ、10ページに書いてあることを書いたほうがよりわかりやすいと思うんです。

○越村委員

おっしゃることはわかります。そもそもこの事業についての説明をしないと確かにわかっていただけないんですけれども、果たしてこの説明をするのは私たちの仕事なんだろうかというのもあったりするので。

○水谷区長

一回全体説明をしています。

○越村委員

結構詳細の部分を確認につっこんでいるので、そうなんです。確かにそれを今言われると確かにそうなんですけれども。ちょっと私の技量ではその図をつくるのは難しいので。ちょっと相談します、作業部会で。

○水谷区長

一度全体説明をしておられるので、逆にこの件について関心があるという方がおられたら、個別説明という形で担当のほうから説明させていただこうかなと思います。

中には越村委員もある程度理解されているじゃないですか、もう一度聞かなくてもいい方、今日来られていない方の中でもおられるかもしれないので、もしちょっとこの辺を深く掘り下げたいということであれば、お答えさせていただきたいなと思います。

○田中（英俊）議長

これが先ほどおっしゃったように、絵に描いた餅にしないために、この作業部会の人たちはこういうことを心配して、こういうことを手当てして、こういうことを考えて、あるいはこういうことを追加してとか、そういうことがこの表に出てくれば。

○越村委員

わかりやすいのは確かにおっしゃるとおりだと思います。これをまず理解していないと、なかなか何を言うてるの？という話にはなると思うんですけども。ちょっと検討します。

○水谷区長

制度の説明をして全体で一回説明してますけれども、ちょっと複雑な部分もありますので、またそこは改めて全体会議、合同会議の前にご関心のある方については個別に情報提供と理解、認識を持っていただいて、そのほうが議論として有意義なのかなと思います。

内容のことなんですけれども、基本的にこの作業部会から上がってきた論点というか意見については、行政としても非常に重く受けとめているところでございます。どうしてもその地域見守りサポーターのところに議論が集中しましたけれども、特にこの見守りサポーターで越村委員を中心に出された意見というのは重要なものが多いと思っています。一番大きい指摘としては一回どこかのタイミングで独居高齢者等見守りサポーターがうまく回っているかどうかのチェックの機会が必要なんではないかというところで、10月というふうにおっしゃっていますけれども、10月ですと実際制度が始まって8月で2カ月あまりということで、じゃあ、そのタイミングで本当に制度の価値が正確にはかれるかどうかという議論もありますので、例えば半年という

タイミングがいいのかとか、あるいはもっと短い3カ月ぐらいがいいのかとかいうところも踏まえた上で、ぜひこれは作業部会ももちろんですし、作業部会以外の区民の方にも入っていただいて見守りサポーターの検証というものをやっていただくというのが大切なのかなというふうに思っております。

それから、報酬等の問題についても、これはなかなか年度内での対応というのは難しい部分がありますけれども、来年度以降もこの事業を継続する上で考えていく必要があるのかなと思います。じつはこの事業は今年度、各区に福祉に関連した施策で今までにはない独自の施策をつくってくれということで約2,000万円程度、事業予算が配分されているんですが、それを使ってつくられた事業です。区によっては福祉というキーワードで子どものための福祉とか、高齢者のための福祉とか、かなり細切れにして事業をやっているところもあるんですけれども、細切れにやっていたら政策効果も限られてしまうだろうということで、天王寺区だと子どもの数が多いですから多くの政策が子ども目線になりがちなんですけど、一方で高齢者の問題もあるということで高齢者に対してもちゃんと福祉と子育て支援は両輪と私がかねてから言っておりますが、高齢者支援を徹底してバランスを図るという趣旨で今回の高齢者見守りサポーターをつくらせていただいております。

そうはいっても、財源に限りある部分もございますから、どうしてもスーパーバイザー、あるいは有償ボランティアに対する報酬支払というのが限られた部分になっていると思いますけれども、それもこの事業実施後のチェック機会というか振り返りの中で検証をいただいて、その結果を踏まえて来年度の事業への反映というものをやっていくべきなのかなというふうに思っております。

そのほか、高齢者宅の訪問をする際に、安心安全カードであるとか家具転倒防止器具取付事業に関する周知もあわせて行ったらどうかというご提案は、これはまさにそのとおりだと思うんです、絶対やらないといけないと思います。だからこれは担当のほうにも私も指示を出しますけれども、越村委員も言われていましたけれども、この

安心安全カード以外にも何か周知できるものがあればこの場で意見を言ってくださいというふうに言われていましたけれども、なかなかこの場だけでは出てこないものもあるので、これは事業実施の８月までにいろいろと吟味して、ただ行って帰るだけじゃなくて、行くからには福祉に関連したこういう施策がありますということをお年寄りに正確に伝えて利用していただけるような、そういう取組みを続けていかないといけないのかなというふうに思っております。

以上です。

○田中（英俊）議長

ありがとうございました。ここで私が言いたかったのは、これは戦略会議の位置づけは何か、という視点を持って我々議論をしているわけで、そうするとこれは区の政策はこういう形で出てきました、それに対して住民として区民としてこういう点に注意して実際効果の上がるようなことになってほしいし、より効果の上がるようなことにするためには先ほどの安心安全カードとかあるいは家具転倒防止とか、こういったことも一緒にやるとか、効率的・合理的に効果の出るような形をするために意見をまとめたんだということ。

○越村委員

一文を入れたほうがいいですね。

○田中（英俊）議長

有識者会議委員の方々に理解してもらわないと、なんだフォローをしているだけかと思われても、これだけ議論してきたのにもったいないですから。

ほか何か皆さん、どうぞ。

○田淵委員

それと越村委員、この前最後のときに出たこういう事業ですから、デザイナーのときにも話があったように、広宣活動、PRをきっちりやって、各病院とか医院とかいろいろなところに協力をいただいて町会も含めて、そういうポスター、予算もいること

ですけれども、つくって啓蒙活動をできるだけ努めたほうがいいんじゃないかという話は出ておりました。

○田中（英俊）議長

私ばかり話して申しわけないんですけれども、住民じゃないから私のところに情報がどのルートからも入ってこなかったのかということで、この場を除いて考えれば、例えばこの見守りサポーター事業でボランティアを求めているという周知は？

○越村委員

区政だよりに載っていました。

○田中（英俊）議長

区政だよりを読む人はほとんどいないという、そういうことですよ。区政だよりは配ったら皆さんが読むと思ったら、10人に1人読んでいるかどうかでしょう。

○越村委員

それも含めて田淵委員がおっしゃったように知らない人がいる中で、各家庭に入っていって、ご本人も戸惑うでしょうし、近所の人も「こんなんが区役所から来てんけど、これホンマやろうか、何とか詐欺なんちゃうやろうか。」というのもあるやろうから、みんなが知っていないといけないんじゃないかなということ。

○田中（英俊）議長

変な言い方しますけれども、今の大学生で新聞を読んでいる人は10人に1人いないと思いますよ。そういう、世の中で起きていることは携帯で見るような感じで。したがって新聞をとっていないところもかなり増えていて、新聞と一緒に区政だよりも折り込みで入ってくるわけですから、家庭にも届いていない可能性もあるわけです。だから自分の日常の経験で判断しないで、実際住民がどういうところから情報を得ているとか、どういう形で区とかかわっているかということも考えながら案をつくっていかないと、それこそせっかくやっているのに効果が出ないということになりかねませんなという感じを持ったんですけれども。

○水谷区長

そうですね、だいたい別にこれは天王寺区政のみならず、世の中のあり方、国のあり方とかを論じていると何でなかなかよくなるのかということ、だいたい教育が悪いせいだ、あるいは広報が足りないせいだという結論になりがちなんです。よく床屋政談とか居酒屋で放談しているとだいたいここに行き着くんです。それは間違っていはいない真実なんですけれども、本当に問題を解決しようと思ったら一步その先に進んで物事を考え、議論しないといけないのかなと思っておりまして、それは7万2,000人区民みんなが行政情報を知っている状態がそりゃあいいし、それをめざす上で頑張るんですけれども、じゃあ、それに行き着くためのアプローチは具体的にどんなものがあるのかということを冷静に考えていく必要があると思うんです。

行政というのも、私が去年8月に就任しましたけれども、それまでに広報というものを一切やってこなかったかといったら、それは全くなくて外形的には十分な量をやっているわけです。それは何かと申しますと、これは去年8月からですけれども、区内に80カ所ある掲示板に行政情報が掲出できるようになりました。ホームページでもやってます、フェイスブック、ツイッターといった新しい時代のインターフェースにも多くの区役所が対応しています。それだけやってなおも区民の認知度が高まらないのはなぜかといったら、もともとの根本の理由として、それほど多くの人間が政治とか行政とか、そういう公的な事柄に関心を持っていないよねという、そこに行き着くところがあるわけですね。

なかなか、一朝一夕でこの認知度向上に資するアプローチというのではないかもしれませんが、私はよく情報発信の多チャンネル化と言っているんですけれども、考えられる限りの多くの情報発信の手法を使っていくということと、一つ一つの情報発信をする上でも、ちょっとおもしろく情報発信が見てもらえるように工夫をします。

先ほど田渕委員がデザインの話をされましたけれども、多分そういうデザイン上の工夫とかもそこに絡んでくるのかなと思います。田渕委員も先ほどご指摘されたよう

に予算上に限りはある事実はあるんですけども、そこはちょっと創意工夫をこらして、先ほどもこの会議に来る前にフェイスブックで今度7月に天王寺公園で再びやるオープンカフェイベントの告知とインターンシップの告知をやってきたんですけども、ちょっと目を引いてもらうために見出しから工夫するとか、そういうところでちょっとずつですが努力をしていく必要があるのかなというふうに思っております。

○水谷区長

そのほか、見守りサポーター以外のご提案については、まさに本当におっしゃっておりだと思っていて、先ほど酒井委員が福祉避難所の拡充ということを言われましたけれども、天王寺区役所も去年から今年にかけて、いわゆる災害に対する避難所の拡充という量的な面では非常に拡充してきたという経緯があります。

しかしながら、量だけではなくてこれから質を問われるタイミングだというふうに思っておりまして、例えば障がいのある方とか高齢の方とか災害時要援護者と呼ばれる方々のために、そういう方々に対応した形での避難所の拡充というのを今年度新設された危機管理課と連携して進めているところです。

あと、災害教育の窓口一本化については、もっと関係機関の連携が必要だと思います。今、隔月ペースで行政機関の連絡調整会議というものをやっておりますけれども、消防とか警察といった関係機関と情報交換を緊密にしてそういう一つの窓口に来たときに、たらい回しにするんじゃなくて、そこが責任を持ってつなぐような体制とかを確立していきたいと思います。

○田中（英俊）議長

ここで実際、民生委員をなさっている方もいらっしゃるわけです。地域活動協議会の活動にも期待をしているところなんですけど、地域活動協議会の活動って皆さん見えていますか？もう天王寺区は今最も活動しているというふうに耳には入ってきているんですけども、先行的に動き出した区もあるといいながら、住民と地域活動協議会の関係って、これからですか。

○栗谷委員

私も地域活動協議会のメンバーで、やっているんですけども、結局大阪市のお金の仕組み、流れを統一化というか透明化にしようというのが第一の目的だと私は感じております。今まで無駄というか二重にやっていたことを一本化にするという、お金の流れの精査というのが一つあると思うんですけども、実際住民の方と我々委員のメンバーでは、まだまだ開きがあって、原田（照）委員も入っておられると思うんですけども、もっといろんな人に入っていてわかっていただきたいというのがあります。メンバーといたら町会の役員さんがほとんどなんですね。町会長がリーダーをとっているんですけども、もっと若い方に入っていて地域が活性化すればいいと思うんですけども、私たちがさえも一番若い年ぐらいなんです。メンバーを見たらPTA歴代の会長とか町会長になるんですが、もっといろんな範囲での地域活動の募集というか公募をして活性化したらもっといいんじゃないかなと思います。

○原田（照）委員

地域活動協議会といって各地区でいろいろと差はあると思うんですけども、私どもの場合は結構、地域活動協議会のそれぞれの部会、これが結構若い人がやってます。聖和の場合は「聖和まちづくり協議会」という名前なんですけれども、実際の実動部隊、案を出す、動く、そういう人間は比較的若い人間が動いています。そういうものができたんだよということを、いろんな広報的なもので回覧とかそういうのはしているんですけども、そういうことをみんなにわかってもらうために、今年の8月に聖和のサマーフェスタというか、そういう盆踊りの少し変形というかパワーアップしたような形で企画して、そういうものをやることによって、いろんな地域の人にもおのずとそういうものとまちづくり協議会とが一緒になった形で理解してもらえないかなと。これは一回やればいいということではなくて、そういうものを毎年やっていくことによってそういうまちづくり協議会、地域活動協議会、そういうもの自体が住民の方に理解されていくんじゃないかなというふうに思います。

○田中（英俊）議長

ですから、聞きたかったのは地域ボランティアリーダーと地域のリーダーと地域活動協議会が連携して協力し合うというふうに書かれているけれども、それは動き出せるかどうかですね。

○原田（照）委員

基本的には地域活動協議会イコール町会と、みんなダブっているわけですよ。その中でそういう会合の中でそういうテーマというのはそれぞれ各部会の中でテーマとして捉えているわけですね、高齢者の独居の問題とか。そういう問題をその1つの部会で考えるんじゃなしに、全体で考えて町会で落とし込んでいく、またはそういうことがやってくれるところ、また民生委員も当然中にいますから、そういう形の協力というのがないとなかなかこれは非常に根気のいる事業だと思います。

○栗谷委員

地域活動協議会の中にも各連合に会館があるんですけども、そこに推進員という女性の方がいらっしゃると思うんですけども、その方が一番地域のことを一番よく知ってはります。何でもその方に聞いたら知っているということで、天王寺連合ではその方もメンバーになっているんですけども、そういう推進員の方も含めたこういう地域ボランティアリーダーをもっとやれば幅広い範囲で熟知できると思うんです。

○越村委員

推進員もなくなったのでは？

○栗谷委員

なくなったんですけど、そういう方がやっぱり僕は必要だなと思います。

○田中（英俊）議長

部会としてはこの表には地域活動協議会と、民生委員等と連携すると言ったけれども、どうやったら本当に連携の実が上がるのか、そののところまで踏み込まないとなかなか実際に考えているサポーター事業というのが動かないんじゃないかと心配なん

ですけれども。ちょっと余分なことばかり言ってますけれども。

○水谷区長

その点について、先ほど言及し漏れていましたので改めてさせていただきますと、先ほど原田（照）委員がおっしゃったように、行く行く本当に理想的なのは町会というかお隣さん同士の見守り体制がつくられると、それが本当に理想だと思うんです。

我々がやる事業というのは、いわばその理想に行き着くための過渡的な措置という意味合いが強くて、そういう意味もあって何でも行政だけできるわけではないというところは認識しておかないといけないのかなと思います。

越村委員もパイロット地区というかモデル地区的に、全ての地域で実施するんじゃないかとどこか重点的に始めてもいいんじゃないか、というご提案もありましたけれども、それぞれの地域があっても、見守りが極めて活発なところと相対的に見ればもうちょっと見守りの必要があるかなというところと、濃淡が活動においてあるのも事実なんですね。

本当に一部の地域活動協議会では民生委員さんや町会を中心に本当に頻繁に見守り体制ができているようなところもあります。そういったところでは、行政が見守りに参画していった妙な形で屋上屋を重ねるような形になってしまっただけではいけないですから、地域活動のほうを尊重して我々として、どういう連携ができるかということを改めて考えると。保健福祉の見守りサポーターの担当者にも、それぞれの地域の実情に応じた形でサポートしようということを今指示しているところです。

そういうやりとりの中で、先ほど原田（照）委員が言われたような地域の民生委員、町会との見守りサポーター事業との連携がどのように図れるかということを模索していったら、その試行の結果を10月なのか11月なのかまだちょっとおいておくとして、越村委員が言われているような検証の機会に皆さんにチェックしていただくというのが一番理想的なのではないかというふうに思います。

最後、栗谷委員が言われたように、栗谷委員もネットワーク推進員という制度がな

くなっているという認識にたった上でのご発言だったと思いますけれども、その推進員さんしかり、地域のことをよく知っておられる方々というのがさまざまな場所におられるわけです。それは地域にも当然おられますし、消防とか関係機関の方々ともお話ししていても、高層マンションの何階の何号室にこういう暮らしぶりの方がおられるとか、細かく熟知されているようなキーパーソンの方々というのがおられるわけです。そういう方々を重用してこの見守り体制の中に巻き込んでいけるような、そういう努力というものには保健福祉課を主導にやっていかないといけないかなというふうに思っておるところです。

○田中（英俊）議長

そうしましたら、このテーマはここまででよろしいですか。

では3番目のシティ・プロモーションの点につきまして田中（創）委員から最後。

○田中（創）委員

シティ・プロモーションからですけれども、前回の発表で広い天王寺区の中でどこに注目して、いろいろ案は出たんですけれども、どういうことに絞って重点的にやっていくかということで、天王寺公園というのを一つの重要な拠点と考えて、その魅力づくりということに絞っていこうということ、そういった説明をしていただいたかと思います。

改めてですけれども天王寺公園、大きなターミナル駅の近くにあるんですけれども、現状としては緑も多くて、家族連れも利用され、入ってさえくれば使い心地のいいものなんですけれども、ただ、そのアクセスの問題が非常にネックになっているのではないかという認識をしております。

特に改善すべきと思ったのは天王寺公園へのアクセス、一つは動線です。アクセスもその一つですけれども、出入り口の問題であったりとか、あとはその周辺部分の回遊性といったものをどうやってもっともっと高めていくか、それを高めていくことによっていろんなところから公園を行き来する、そういった人の流れをつくり出してい

きたいということを一つ考えています。

それから、もう一つとしては公園内、そうやって来ていただいても公園自体に魅力がないと、すぐに飽きられてしまいますので、今までになかった、足りなかった公園に本来こういうものがあつたらいいんじゃないかなという、そういう点は考えていきたいということで、今回二つ大きなテーマとして、一つ目が動線づくりです。もう一つが公園内の魅力づくりということでお話させていただきます。

22ページのあたりになるんですけれども、まず1つ目の動線づくりということで、大きなターミナルに面した公園ということなんですけれども、そのターミナルからの動線が現状なかなか効率的なものになっていない、合理的なものになっていないのではないかなと考えています。

例えば、JR天王寺駅から本当に交差点を挟んで真正面に天王寺公園の入り口があるんですけれども、なぜか横断歩道を2回渡っていかなければいけないと。しかもその23ページの右上に写真がありますけれども、1つ目の短い横断歩道はともかく、2つ目の横断歩道はかなり北のほうに、公園の入り口から見て北のほうにあると。なので、渡った2つ目の横断歩道を渡った先に何があるかという、交番があつたりとかラブホテル街があつたりとか公園に来てもらうための、そういった動線になっていないんじゃないかなと。

それで、1つ提案したいのは、前回そういった問題を改善したいということでスクランブル化ということを話には出て、それは現状厳しいのではないかなという意見があつたと思いますけれども、今回は横断歩道が北により過ぎていると思われますので、これをもっと南下させて、横に流れている矢印の下の方です。こういった場所に横断歩道を移動させることは本当にできないんだろうかということを真剣に提案したいなと思っています。

ひとつその上で、問題になってくるのはこの矢印の当着地点にバス停がありまして、ただ、それも工夫の仕方ひとつではないかなと思いますので、こういった点を今後大

阪市交通局とかそういったところとの議論とかも必要になってくるのかなとは思いますが、せっかく公園に来ていただくためには、まずそういったお客さんを遠回りさせてという動線はあり得ないと思いますので、そういったあたりを提案していけたらなと思っています。

それが動線づくりの一つの案になっているんですけども、それでもう一つがこれから田淵委員に説明していただくんですけども、茶臼山方面に関する動線も考えています。

では、お願いします。

○田淵委員

私の提案は天王寺公園全体の一番北側です。北側の谷町筋沿いに天王寺公園に、今出口はかろうじて一心寺のほうに、目立たない門があるんですけども、出るだけではなくして入れるルート、それも谷町筋沿いから入れるルートを確保したらどうかという提案です。その動機はシティ・プロモーションのメンバーが天王寺公園に一つは的を絞ろうという話があって、私も何回か足を運んだんですけども、天王寺公園、あれだけ広い面積がありながら、実際使われているところというのは、南側の洋風庭園化された部分だけだと言い切ってもいいぐらいなんです。あとは美術館、それから慶沢園に全体の2割ぐらいですか、それからさらに北側にある茶臼山公園、河底池、河底池のところは多少おられますけれども、茶臼山公園になると、ほぼ皆無というか5%ぐらいに落ちると思っています。

その天王寺公園の全体のエリアの中で北ゾーン、すなわち慶沢園、茶臼山公園を含めたゾーンが恐らく6割ぐらいの面積はあるわけです。この天王寺公園全体を活かすという意味ではその6割の面積がたとえ2割、3割でも利用が増えれば事実的には活かしていくことにつながっていくんじゃないかなという素朴な疑問、私が感じた疑問を考えました。

そうすれば、どうしたいのかということになると、北側にゲートをつける。

そのゲートをつくるのも、天王寺区側からは特に聖和とか生魂とかあの辺の地域の方はかなり入って行きやすくなるわけです。ところが、大幅な人が大挙、向こうの南側の天王寺口の入り口から入るみたいに増えるとは考えられません。

そこで考えたことは、谷町筋沿いにここにも書いてありますけれども、カフェレストランをつくって、そこに入場者の発見というかそれを委託すると。その周辺の管理まで含めた委託をすると。なおかつそれを管理してくれたところ辺は、「じゃあ、あなたのところ使ってもかまわないですよ」というやり方をすれば、必ず収益は上がるわけですから、そのテナントさんは喜ぶわけですね。

それからもう1点は、24ページのところに、1番の真ん中の下の矢印の下のところですけれども、天王寺公園外の北側の課題の解消と。これはこういうきれいな表現じゃなくて、ぶっちゃけたところはホテル街、あの辺の雰囲気解消したいと。夜間は回りがお寺とかが多い関係で、どうしても人通りは少ないと。だから、その営業店舗は夜間もある一定の時間まではできるような運営をすれば、あの堀越神社のあの暗い感じのところを明るくできるんじゃないかということを考えてます。

なおかつ、その同じページに②の下段に書いてある、天王寺区の店舗に出店していただき、地産地消の天王寺区をアピールするということで、これは常設でもいいし、仮設でもいいし、例えば有機野菜の市場を定例的にそこで開催するということもやれば、人はどんどん集まってくるわけです。今私も調べたんですけれども、私が考えている場所というのは大阪市の公園管理事務所の資材置き場、谷町筋に沿ったあの一等地が単なる資材置き場で使われていると。資材置き場のほうは、どこか他に考えることはできると思うんです。例えばカフェテラスみたいなやつをその中につくれば、大阪城公園の中にも中之島公園の中にもそういった形で公設民営的な施設がありますけれども、同じ大阪市の土地、資産を使って最大活用をして地域の人、また区外から来られる方が有効に利用できるような場所にしていけばいいんじゃないかなと思っております。

恐らく、資金としては箱物、お金がかかるようなものをつくるんじゃなくて、簡単な比較的安価な建物でいいと思うんです。それでやっていけばテナント料で恐らく10年以内には償却できて、後々の維持費も生み出していけるものができると思います。

○田中（創）委員

今、田淵委員に、ちょっと触れていただいたんですけれども、24ページの下のほうなんですけれども、入り口というのをつくるだけじゃなくて、それが公園の魅力の一部になるような施設が欲しいということで、それをもっと広げて公園内に入り口だけじゃなくて公園内にもカフェが欲しい。特に美術館もありますし、美術館前とかも、本当にカフェとかがあったらすごく似合うような場所だと思いますので、そういったものをやっていきたいとか、増えていってほしいと思ってしまして、そのためにここにオープンカフェを設置と書いてますけれども、あと慶沢園も使って日本の魅力というのもそこで味わっていただくようなイベント、ただ、ここで強調しておきたいのは、イベントをやるのが目的ではなくて、こういったカフェが、常設されることが本当の目的なので、カフェもできるんだということを近隣の人たち、それから企業の人たちに体感していただくために、まず僕らが汗をかいてとか、まずは実際にやってみようということで、イベントを先月5月18日にも天王寺公園内でオープンカフェをしました。来月の7月27日も美術館のほうでコンサート、美術館自体は閉館日なんですけれども、その閉館日を活かしてバロックミュージックのコンサートをやるということなので、それとタイアップして美術館前でカフェをやろうということになりました。

こういった地道な活動を、10月とかも一応考えてはいるんですけれども、こういった地道な活動を積み重ねていく中で、何とか早く企業の人たち、それから地元の人たちに、私たちもやりたいというふうな流れをつくっていけたらいいなと思ってやっています。

今後の戦略会議のあり方ということで、これは私が書いたものではないんですけれども、私としても結局、戦略会議でせっかくやって、こういったイベントをやっているんで、それが戦略会議で終わってしまってほしくないという思いです。私たちも手弁当でやっているんで、いつまでも続けられるわけではないので、早くどんどん新規参入して行ってほしいという。そのためにも区役所さんにはそういう呼び込みですね、地元の店舗さんに区役所のほうから声をかけていただいたりとか宣伝していただいて本当に区役所が取りまとめてというふうな流れになっていくことを願っています。

とりあえず、本日はこういった段階まで議論が進んでいますという報告でした。

○田中（英俊）議長

はい、ありがとうございました。

私もじつは海外経験がロンドンに4年、ボストンに4年ありますけれども、市立美術館が残ってよかったなと思っているんですが、公園の近くに美術館があったり、あるいは音楽のホールがあったり、市民がそこで楽しい時間を過ごし、食事をし、家族で散歩をしたりするという、それを目の当たりにして見てきました。

例えば、ボストンではボストンミュージアム、今大阪にも来ていますけれども土曜日は無料です。ですから日本からお客さんが来ると無料ですから、いつもお客さんを連れていくということで、今天王寺に来ているのは何十回見たかなと思っているぐらいですけれども、そういう形で公園を市民が自分のものとして楽しく活用して使うということがあります。

ちょっと長くなりますが、大阪は北ヤードをあれだけ開発して、貨物ヤードは緑地にして、人々が憩い・癒しを得ることのできる場にするんだということで、何十億もかけてやろうとしているわけですが、あるいは道頓堀界限も大阪市はお金を多分出していると思いますけれども、せっかく天王寺公園がありながら、それが市民のものになっていない、非常にもったいないと。ですから、皆さんが今報告したことと合わせてせっかくの資源をどうして活用できないのかと。バロックの音楽会のお話も

動いてるんですけども、もともといいよと言われていたにもかかわらず、美術館の担当者がかわったら、ノーと言われて。復活させるために大変な苦勞をしたということがありまして、何で一人の担当者の考え方でいいとなったり、だめとなったりするんだということだと思います。例えばボストンミュージアムでモネの間にパーティーをやってもいいし、食事会をしてもいいしということで市民が活用できるような場になっているわけですから、そういうことも含めたら美術館のホールはあれだけ広いんですから、もっともっと開放してもいいと思うんですけども。

休みになったのは次の展示のための準備があるからということですけども、そんなことも含めて北ヤードとか道頓堀もあるけれども、天王寺公園もあるんだと。そのほか長居公園とか茶臼山とかじゃなくて、真田山とかいろいろあるかもしれませんけれども、これだけの公園をどうやってやるかというビジョンが、ここが問題なんです。ここに書いてあるんですけども、区がビジョンをつくって動けるものなのか、市民が動いてこうしてくれと声を強くして言ったら市は動くものなのか、そのところを今我々区に対して言っているけれども、それでこれからも活動을 続けて實際カフェをさせていただいたけれども、これからどういうふうになっていくのかという心配がありますよね。

この前も同じ議論をしましたけれども、公園を管理している部門、あるいはその上の市長まで入るのかかもしれませんけれども、一体この公園はどういうふうに活用していくのかというのが、どこで議論したらいいんだろうか、我々の議論がどういう意味があるんだろうか、市長が美術館を閉館するんだと発言して一時は心配したわけですから、そういうことも含めて住民として市民としてどういうことをしたらいいのかというのはずっと疑問に思いながらいつも報告を聞いているんですけども。

その点をこの前も区長に質問したので今日はしませんけれども、そのことも含めて我々は何をどうやったら實際今描いているところにつながっていくのかなという、そういう思いはかなり強く見ながら、せっかく大都会というか大阪がもっともっと魅力

があって住みやすく楽しくて人々が豊かに暮らせるようになる上で、何で天王寺公園とかいろんなそういう施設が使えないのかという、そんな思いを持っています。余分なことをちょっとしゃべってしまいました。

そんなことも含めてぜひ、これを進めていただきたいなと思うんですけれども、皆様のご意見をお願いします。

○原田（久）委員

一般的に区長、教えていただきたいのですが、今まさに議長がおっしゃった内容なんですけれども、公園にかかわる部分のお願い事とか窓口というのは区役所じゃないんですよね、公園を管理しているという意味では。

○水谷区長

公園事務所です。

○原田（久）委員

ですよね。今、田渕委員がおっしゃったように、確かに私の勤めている近くが堀越神社のところなので、横に大きな看板が立っていて、なんだろうなここ、ボウフラがよくわいていて嫌やな、というぐらいのイメージしかないのが今、ちょっと確認させてもらって、あそこが公園だったんですね、あそこには。

確かにもったいないですよ、谷町筋から入れれば、いったら御大師様のときとか、たくさんの方が通りますので、ちょっと寄っていく、イメージでいうと、私なんかは動物園があってちょっと上に美術館があって、抜けたら新世界というぐらいにしかなかったんで、非常に大きないい緑地帯が多分うもれているんだろうなと。

すみません、もう3年目になるんですけれども全然そういうことを知らなくて、まさに目から鱗といいますか、いうものがあつたので、なんかそこら辺を逆に、せっかくここまでもってきて、いいアイデアだなというところは単純に今初めて気づいたようにも思えるので、そういうところを区長のほうから、もうちょっと言うことができれば、店をおこうとかいろんなことをするという、いろんな計画はもう少し時間がか

かるでしょうけれども、単純にあそこに入出口を一カ所つくるということぐらいはそんなに難しいことなのかなと。確かにちょっと歩道と看板の高さがあるので、アプローチはしにくいんだろうけれども、例えば堀越神社のところから入らせてもらうとかいうようなこともできないことはないんじゃないかなと思っているので、言っている趣旨とは、内容とは違うんですけれども、そういうことを何とか検討いただけないかなと。

○水谷区長

前回の会議の話とも重複するんですけども、再び申し上げさせていただきますと、公園に関してですね、管轄は公園事務所という形で、公園の施設の改修とかそういったことに関して建設局が所管していることになっているんですけども、基本的にそうした事情がありますから、天王寺公園というものが幾ら敷地が天王寺区内にあるからといって天王寺区役所の単独でどうこうできるという状況はありません。しかしながらこの公園という問題を一つ話し合ってみても、皆さんから実にこれだけ具体的なアイデアが出てくるんですよ。もっと市民にも区民にも親しみのある公園にしていけないといけないという思いは、我々もひしひしと伝わっていますので、これは公園事務所と直接やりとりをする中で、少しでもこの地元の声を伝えていこうという形で進めているところです。

そのためには、公園事務所も公園事務所でいろいろとこの公園のあり方について検討をしている状況がございますから、そういったものを確認して、その中でいろいろと我々も我々の言い分を伝えていくと。もっと言えば、都市魅力戦略会議でも、天王寺あべのエリアというのは、まちのこれからのビジョンを考える上での重点エリアに位置しているわけですけども、その重点エリアとしての一番の価値は天王寺公園があるところなんですね。じゃあ、この天王寺公園の敷地内にある美術館とか動物園を今後どういう形でより活性化していくかというのは、いま本当に有識者を交えていろいろと大阪市の内部でも検討を進めているところです。

区役所としてもそのプロジェクトチームの中に加えていただけることになっておりますので、その中で機会を通じて我々は我々の主張をまさにこうやって戦略会議の中でいただいたような主張を伝えていかないといけないというふうに思っております。

総論はそういう感じなんですけれども、各論で言いますと、天王寺駅北口のところにある、ちょうどロータリーの前にスクランブル交差点をつくるかつくらないかというところについては、これは渋滞を助長してしまうんじゃないかとかいろいろ賛否両論もありますから、一概にこれで本決まりとなって進むかどうかは難しいところだと思いますが、先ほど田渕委員も言われた天王寺公園内の北側ゾーンに、今ちょうど資材置き場があって、動物の絵の描かれたフェンスがあって、搬入入り口があるというところについては近隣の住民を中心に非常に多くの方が改善すべきではないかという意見を呈されておられます。現にこの戦略会議でも田渕委員を中心にそういう案をまとめられたと、これは我々も重く受けとめないといけないなということで、あのエリアの活用方法を含めてどういう状況になっているのかというのは、公園事務所の中で私たちも確認させていただきました。ちょっとまだ議論が動いているところもあって、この場で完全に公表できる状況ではないんですけれども、少なくともこれだけの声が上がっているということは事実ですので、それは関係機関に伝えて関係部局との調整の中で物事を決めて、状況がはっきりとしたところで随時情報公開をしていきたいなと思っているところです。

先ほどちょっとおっしゃっていましたが、実際資材置き場になっていて、廃材置き場もあるわけなんですけれども、じゃあ、仮にあそこを本当に人が自由に出入りできるようなスペースにした場合に、じゃあ、その資材、廃材置き場はどこで代替するかということも含めて非常に細かな調整もある話ですので、そこは細部を確認しながら公園事務所、建設局、美術館に関しては経済戦略局も絡む話なんですけれども、そういう関係局との調整協議を今もしているところなんですけれども、今日の会議でいただいたご意見も含めて、またしていけないといけないなと思っているところです。

○田淵委員

ただ、あそこの資材置き場というところ、私も隣のビルに入れてもらって上から写真を撮ったんですけども、何も利用されてなかったんです。たまたまそのときはでしょうけれども。

○水谷区長

そうですね、どこか代替できる場所がありますからね。

○田淵委員

そう簡単には見つからないかもわかりませんが、そちらから考えるほうが早道だと思います。

○田中（英俊）議長

ほかご意見。はい、どうぞ。

○原田（照）委員

非常に無責任な意見なんですけれども、先ほど動線の作出ということで茶臼山のゲートの天王寺公園北の、公園外の北側の課題の解消という何かわかりにくいような表現をしているんですけども、これとあわせて、例えば天王寺駅の北側、ここら辺の再開発なんか、10年とか15年計画とかそういうことで何かできないんですか。

○水谷区長

すごい、よくぞ質問してくれたというような質問でして、考えていることが結構一致するんですよね、この北口エリアをどうこうするかということは。それは我々もそうですし、地域の皆さんも本当にそうなんですけれども、その上でまさに北口の再開発というのが多くの方が悲願されているところだなと、私も多くの区民の方と触れ合う中で実感しています。

天王寺公園の中でイベントを一つやるにしても、それはイベントをやることだけが目的化してしまっているといけないということを、先ほど田中（創）委員が喝破されましたけれども、本当にそのとおりで、一つ一つの積み重ねの先にどういうエリア全体の

ビジョンが示せるかというところが今まさに問われて、これはまだちょっと役所全体でオーソライズされた見解じゃないですけども、ビジョンというのも一部の人が、それは地域の一部の人がとか、行政の一部の人が掲げているだけでは、なかなかみんな夢を見れないというか、みんなで共有できる喜びがありませんので、そこはビジョンがつくられていっているんだという経過も含めて、多くの人に見てもらって、またみんながモチベーションを高めて、そこに乗っかってもらえるような取組みとして見せていかないといけないのかなというふうに思っております。

ちょっと抽象的ですけども、具体的に申し上げますと、例えばほかの自治体なんかでは東京のアメ横だったかなと思うんですけども、アメ横も非常に古くから市場街というイメージがあって、これをもうちょっと時代に即したセンスあるおしゃれなまちにしていこうと言ったときに、学生さんを対象にデザインコンペみたいな形で実施しているんです。実際そうやって集まってきた案をみんなに見てもらって、例えばターミナル駅の前にそういうのを貼りだしたりとかしたら、「あ、このまちってこういうふうにかわっていくんだ。」という非常に親しみも喜びも感じてもらえると。それで投票することで、またそのビジョンメイキングに自分たちも参加しているんだという、そういう充足感も得られますから。

そういう取組みなども参考にしながら、北口を含めてあのエリアが今後どう変わっていくのかと、どう変えていくのかというところをみんなで共有できるような取組みを検討して、これは区のほうからも発信しないといけないなということで、関係局ともまだ本当に準備中の準備みたいな段階ですけども、ちょっと意見交換をさせていただいているという状況です。

○田中（英俊）議長

はい、どうぞ。

○飛田委員

私は多分ここでまず無料化というのをしてみないことには、人はそれで来るのかと

いうことはわからないので、例えばこのオープンカフェをするならその日は無料にしますよとか、多分ゲートをつけても有料化をするなら人がいるので、結局はそんな人件費を出せないから、そこにゲートをつくれなみたいな話になってしまうような気がするので、まずは無料化なのかなと。無料化でなおかつ昔のようにいろんな人たちが入ってこないようなことを考えないと、私らが小さいときの天王寺公園というのはあんまりいいイメージがなくて、いろんな人たちが寝ていて怖いというイメージしかなかったので、そういうのも排除できるような何かというのがまず要るのかなというのと、都市計画の話だと私は失敗例の阿倍野みたいなのがすぐ頭に出てきてしまうので、長期間かけてやるような何か、多分これは大阪市なんでしょうけれども、そこに区というか住民の方がうまく入っていけるようなものが何かできればいいとは思うんですけれども。

○水谷区長

おっしゃるとおりだと思います。まず、1点目の無料化というところは、公園が今後のあり方を考える上で避けて通れない論点だと思います。我々も公園事務所等関係局に確認する中で、そういった論点は必ず出る話ですし、またそうしたことも各局のほうで検討している状況もございますので、今の段階であんまり積極的には言えないですけれども、局の中でもそういう無料化、それはあれですよね田渕委員が言われたように動物園のフェンスとかがあったらあの搬入口があるところを仮に出入りできるようにしたら、それは人の流れをつくるという意味では無料化じゃないとどうしてもぐあいが悪いというような次の論点に移りますし、そうなったらどうしても飛田委員が先ほど言われたように無料化という話は避けては通れなくなると。その中で準備している経過もありますので、またそういうところも区役所としても絶えず要望しながら検討を進めていかないといけないのかなというふうに思っております。

次に言われたような阿倍野区の開発をちゃんと教訓として踏まえてというお話ですが、今の時代なかなか公設置で開発を進めるということはできないと思うんで

す。阿倍野区も確か再開発で数千億単位になった赤字を背負ったというふうに伺っていますけれども、いかに民間資本を集めて開発するかと。例えば東京のほうでも渋谷駅前の再開発もなかなか民間資本が集まらなかったわけですが、民間資本を何とか集めて今本当に活況を呈しているという状況がございますし、民間がそれだけ参入してビジネスチャンスがそこにあると感じていただけるような絵図をどうやって示していくかということが本当に大切だと思います。

そういう意味でも先ほど私が申し上げたデザインコンペとか、そういった施策も検討しながら考えて実行していかないといけないのかなというふうに思っております。

○田中（英俊）議長

ほか、ございますか。

そうしましたら、これはこの形で提出しますか。

多分いろんな方々がいろんな昔のいきさつとかいろんな意見が出てくるかもしれませんが、そうしたら有識者会議委員の方がどういうふうに言うかも楽しみにしながら我々の思いを伝えていければと思います。

ほかに特に何かご意見等ございますか。

それでは、せっかくの機会でございます。市会議員の皆さんから、足高議員から今の議論を踏まえてお願いします。

○足高議員

今日いろいろおもしろいというか、いいお話をたくさん聞かせていただいて、その前に前回もそうだったんですけども、ちょっと欠席の人が時々おられるのは、もうちょっとみんな頑張っていたらうれしいなという思いが一つ。

それから、今日のお話の中で、今動物園とか公園の話、基本的には同じ考え方なんです。ところが市長は動物園の中にレストランをつくりたいと。私はそこにレストランをつくるぐらいなら、おっしゃっているようにあそこの茶臼山のところにオープンカフェをつくるほうがよっぽどいいと思います。

基本的に、公園は無料にしていきます。まだ具体的にはなかなか区長の立場で言えませんけれども、そういう流れの中でいろいろ研究していますし、近日に飛田委員がおっしゃったようにご迷惑をかけないような形の中で無料化をします。これは方向としてはちゃんと決まっています。昔ややこしいのを経験しておられるから、そんなことは絶対ないように方向は決まっていますので、それは安心していただいたらいいのかなと。

それから、茶臼山のところも私らの時分のときは川のあそこのところにボートがちゃんとおりましたし、現実に乗ることもできたし、そのあと私の関係している天王寺ライオンズですけれども、そこであの周りに桜をじつは去年でしたか十何本植えているんです。そういう形の中でちょっとでも皆さん方に楽しんでいただける形はしているんですけれども、ただ、基本は先ほど動物園のところ、入り口をつくったと、あれは私がつくったんです、一部ある人が抵抗しておられましたが、何とかできましたけれども。今の動物園を活性化しようと思ったら、市長が年寄りの動物園と言うてはる、この間からたくさん亡くなっているでしょ、キリンにしても。本当に動物が年寄りの動物園なんですよ。そこを人が来てもらうような形で、例えば皆さん方からもっと本当はお話をいただいたら。動物園の中にレストランをつくってもよろしいですけれども、その前に魅力あるものを呼んでもらわないといけないということが大事で、じつはいろいろ提案も何年も前からしているんです。予算は消えていないんです。調査の段階で、例えば海遊館がこの間、新しいのを何十億かけてつくりましたね。あれに近いことはずっと言ってるんです。

あるいは京都の水族館と同じようなことは、ずっと言うているんですけれども、なかなか大阪市の前の市長も今度の市長も一緒ですけれども、市長部局までは上がりますけれども、予算はつきません。ですけど話は消えていません。それだけまだ天王寺動物園に対して、うめきたとかと比べてお金を落としてやろうと、いうところまでなかなかそれを踏みきっていないというのが現実なんです。

その中でも先ほど言ったような無償化の問題であるとか、それも飛田委員が心配していることがないような形でやるということもちゃんと決まっていますし、いろんなことはまだ言えない部分はたくさんあるんですけども、前向きにはいっているということだけ、ちょっとお話しておきます。

以上です。

○田中（英俊）議長

では、福島議員。

○福島議員

今日もまた非常に活発な議論をありがとうございました。この区政会議のあり方というところがありましたけれども、議会のほうで言いますと、私が入る市政改革特別委員会という委員会があるんですけども、そこでいろんな市の政策のことを議論することになっています。そのP D C Aサイクルという、それがどれだけ評価が、成果があったかということをこの委員会で議論することになっているんですけども、その中の一つの項目で、区民の意見をどれだけ酌み上げたかというところが、今の現状では非常に難しいという部分があります。その中で、もちろん区政会議という項目もありますので、天王寺区の場合はこの戦略会議というのがあって、二つに分けてやっているというのは他の区にない例で、それも毎月していただいていると、作業部会もつくっていただいているということで、非常に活発だと思うんです。先ほども美術館のところ、そういうことをされたりとかということがあるので。

それで区政の意見を酌み取るというのが天王寺区ではこの区政戦略会議と、あと区民モニターというのがあると思うんですけども、それを今後、天王寺区だけではなく大阪市全体でいかにそれを酌み取って、もちろんその意見が皆さんご存じのように大多数が採用されるということは難しいと思いますけれども、でも議論をすることも非常に重要です、その結果それが形を変えてでも目的は同じで、例えば天王寺を活性化したいとかそういう目的ではできる部分があるというふうに思っていますので、

そういう意味でも公募区長が来られて、そして区民の意見をいかに酌み取ってやるということが、これから議会でも議論をしていくということになると思いますので、非常に天王寺区においてはそういう形でしていただいているということはあるがたいなというふうに思っております。

以上です。

○田中（英俊）議長

ありがとうございます。そうしましたら区長、最後に両議員の話も受けて何かあれば一言。

○水谷区長

本当に、まず足高議員のご指摘のとおり、なかなか公園等については私の立場では申し上げがたいところもあるんですけれども、私のはっきり言えるのは今日出てきた公園に関する皆さんのご意見というのは、本当にリーズナブルというか、ふつうにこの天王寺区に住んで、ふつうに生活をして、このまちでお買い物をして、子どもを育てておられたら当然抱くであろう疑問というか、抱くであろう要望だろうなというふうに受けとめています。ですからこうしていただいた皆さんのご意見を踏まえてどういう形で、また行政内部での議論の調整等に臨んでいけるか、というところで我々も気を引き締めないといけないかなというふうに思っております。

それから福島議員に評価していただけたように、天王寺区では毎月一回という形でこの区政戦略会議をやらせていただけてきたわけですが、この会議で公募で応募いただいた皆さんに対しては、本当に心から敬意を表させていただきたいなと思います。本当にどんな会議になるのかも全くわからない中で飛び込んできていただいて、これだけ本当に作業部会も自主的に開いて、これだけ資料もまとめて次の全体会議に臨んでいただけるということで、本当に我々としても頭が下がる思いです。

また、このほかにも天王寺区役所で「あなたの声をつなげ隊」という、区役所の営業マンチームみたいな取組みもしておりまして、今月も公園に行って公園デビューを

しているパパさんママさんに子育てニーズを伺ったりだとか、高齢者の方がレクリエーションをしている場所に行って福祉に関するニーズを伺ったりだとか、日ごろ区政に対して言う機会がない、あるいは区政に興味がない方々にこちら側からアプローチしていってご意見を伺って、それを踏まえて施策事業に活かしていくという取組みをやらせていただいているんです。まだまだ去年8月に就任させていただいて、もう少しで1年ですけども、1年とはいっても限られた時間と私自身のまだまだ勉強不足もあったのか不十分な点、皆さんにもご迷惑をかけている部分があるかもしれませんけれども、そうした教訓も踏まえて今後も区民の皆さんの声の集約というところに取り組ませていただけたらなというふうに思っております。

本当に、区政会議の条例化ということもありましたので、この会議の位置づけ、委員の位置づけというのも変わります。今日このあと事務局からまた説明させていただきますけれども、この過渡期の中で条例に基づいた区政会議という形でより皆さんの責任というか発言の重みというものが増す中にあっても、ぜひ継続して参加・出席したいという方がいたらぜひお願いしたいなというふうに思っております。

今までも本当にハードで、そのハードな会議がまたさらに長引くということにはなるんですけども、せっかくこれだけ熱を帯びてその熱意、まさに高まってきたという状況ですので、皆さんでこの結束をもって会議の中身をよりよいものにしていただけたらなと思っております。ぜひ、また継続していただける方におかれましては、この区政戦略会議を続けていただきたいなというふうに思っております。

○田中（英俊）議長

そうしましたら、本日の議事は以上とさせていただきます。区役所に進行をお返ししますけれども、その中で先ほどお話ししました全体会議では24年度の事業評価もするというので、それについて例えば資料をどういう形で送っていただくのとか、そのこともお伝えいただければと思います。よろしくお願いします。

○事務局

まずその１点、先ほど区長のほうからもございましたけれども、条例の施行に伴いまして、事前に区政会議の条例、規則、天王寺区区政会議運営要綱をお送りさせていただいております。その、条例、規則、要綱の中で９月末までは現在の委員の皆さまに委員の継続のほうをお願いしたいのですけれども、１０月以降につきましても引き続き区政会議の委員としてお引き受けいただけるかどうかの、ご確認というかご意向を確認させていただきたいと思って、近日中に連絡のほうをさせていただきますのでご協力のほうをよろしくお願いいたします。

それと、議長からのお話で全体会議のときの評価に関する資料なんですけれども、２４年度区運営方針について、こういった取組みに重点的に取り組んでどういうふうな状況までなっているか、というふうな資料をお示しのほうをさせていただいて、それを評価していただくということなんですけれども、また案のほうをつくりましたら事前にまた皆様にメールなり郵送のほうでお送りさせていただいて、ご確認のほうをいただきたいなというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○田中（英俊）議長

いつごろになりそうですか。

○事務局

選挙が終わりましたらできるだけ早いうちというふうには思っています。

○田中（英俊）議長

はい、わかりました。

○事務局

本日も熱心なご議論、どうもありがとうございました。お手元にいつものようにご意見シートをお配りしておりますので、もし何かありましたらその様式もしくはメールでまたお送りいただければと思います。

本日の資料及び議事録、議事概要等、区のホームページで公開してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。またご確認のほう、お送りしたいなというふ

うに思っておりますので、よろしくお願いします。

○田中（創）委員

すみません、全体会議では作業部会からの説明とかいうのではないということですか。

○事務局

議題は24年度の運営方針の評価と、この1年間、区政戦略会議の皆さんでご議論
いただけてきたこの資料に基づいて、1年間どういうふうな議論をしてきたかという
ふうなことについて、有識者会議委員も交えてご報告といいますか議題とさせていた
だきたいなというふうに思っております。

○田中（英俊）議長

ひとチーム何分ぐらいもらえるんですか。各作業部会からの説明には何分ぐらい配
分があるんですか。

○事務局

まだはっきりそこまでは決めてはないんですが、極力長い時間をとらせていただい
ければなとは思っております。

○田中（英俊）議長

はい、では皆さんご苦労さまでした。

○事務局

ありがとうございました。

—了—